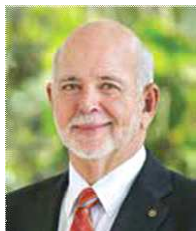




12月のロータリーレートは1ドル=112円 「My Rotary登録状況：11/43≒26%、目標50%」

今年度のテーマ



2018-19年度RI 会長  
バリー・ラシン氏  
East Nassauロータリークラブ  
バハマ (ニュープロビデンス島)



2018-19年度ガバナー  
若林啓介氏 (富山RC)



## 例会便り

第 943 回  
12 月 13 日  
例会出席 23/43 53.49 %  
招龍亭

仲島康雲 S.A.A.



## 点 鐘

1. 四つのテスト
2. 武藤清秀会長挨拶



## 《食 事》

### 3. ゲスト・ビジターの紹介

- (1) ゲスト 韓学中様 (2) ビジターなし

### 4. 皆出席顕彰 1カ年 東海林也令子会員



### 5. 幹事報告・委員会報告

〔幹事報告〕

- ① 来週は19時よりホテル日航金沢 3F「孔雀の間」において「年忘れ例会」を開催します。
- ② 12/27・1/3・1/10 は休会です。
- ③ 新年はじめの例会は 1/9 (水) 18:30から東急ホテルで行われる「金沢8ロータリー合同例会」となります。



### 6. ニコニコBOX紹介 ¥4,000- 本年度¥197,200- 残高¥4,264,365-

武藤清秀会長：皆さん今晚は。韓学中様 ようこそいらっしゃいませ。木下さん卓話楽しみにしています。

魏賢任会員：皆さまこんばんは。ようこそ招龍亭にお越しくださいました。木下会員の卓話を心より楽しみにしています。そして、新店オープンおめでとうございます。

私の友人で北京で画家の韓学中先生がゲストとして参加します。宜しく！



## 7. 卓話

木下 眞知子会員 「我以外皆師」



1952年12月10日鶴来生まれ のんびりと何不自由なく暮らした  
 1975年3月 友人の結婚式がご縁で末っ子同士で建築家の夫と結婚、同居  
 4年後建築デザイン会社を設立、総務、経理、雑務係  
 15年後に 今の金沢まいもん寿司を始め取締役となる  
 海外進出の判断ミス等、乗り越えてこられたのも皆様に助けてもらいました  
 独立して44年でネーミングを金沢まいもん寿司に新しくして来年で創業20年になり、日航さんでささやかな式典を上げさせていただきます

## 8. 謝辞

点 鐘

パストガバナーからの手紙

372回2018.12.20

炭谷 亮一



### 原発の未来と日米原子力協定

福島原発事故以来、日本中では脱原発の嵐が吹き荒れている。現在国民の7割が脱原発に賛成であり、原発推進などの言葉はほとんど聞かれなくなり、安倍首相ですら「限りなく原発に依存しないエネルギー社会を目指す」との幻想をチラつかせながら原発を横目でにらんでいるといった状況である。日本の原発は依然として未曾有の苦境に立たされている。

日本の最大の課題である原発再稼働問題は、福島原発事故から6年半にして再稼働にこぎつけたのは48基中わずか5基にすぎず、原子力規制委員会の安全性の審査はあまりにも遅いと言わざるを得ない。稼働させないことを前提に審査しているのではないかとさえ考えられる。

これはイギリス人の友人に言われたことだが、事故を起こしてもいない原発をなぜ止めるのだと、安全性に不十分なところがあるのなら修理して再稼働させ、または稼働させながら修理すればよいのではないかと、だいたいスリーマイル島やチェルノブイリの事故で他の原発を止めたりはしなかっただろう、と。日本は安全性を求めるあまり神経質になり過ぎではないかとの問いに、私は返答に窮したのを覚えている。

この7月で日米原子力協定を自動更新される可能性が大である。「日米原子力運命共同体」という事実を我々は認識すべきであろう。事実、原発建設は日立とGE、東芝とウェスティングハウスという枠組みで行われている。

日本の「脱原発」「原発ゼロ」論の甘さは、中国・北朝鮮の核の脅威に対して「米国の核の傘」による抑止力に守られていたいとしながら、他方でも「脱原発」も可能だと考えることにある。日米安保体制を解消し「米国の核の傘」の外に出て日米原子力共同体を解消するならば論理的に一貫しているのだが、「脱原発」を叫ぶ細川・小泉の元首相たちもアメリカに正面切って向き合うロジックは残念ながら持ち合わせていない。つまり、原子力に関するアメリカとの関係をどうするかという総合戦略なしに議論は進まない。この問題に対し、はっきり見解を語るの国会議員は与野党合わせて1%もないだろう。原子力の問題は技術と政治が複雑に絡み合っており、例えばドイツは2020年代には原発を止める方針のようだが、ただ1基だけは稼働させる方針だ。つまり原子力の技術を断裂によって失ってしまわないよう技術基盤を維持し、さらには「脱原発」そして「廃炉」になっても高い技術基盤は必要となってくるためだ。

日本の脱原発運動のように即すべてを廃炉にしろと叫ぶより、将来のことを考えて原子力の技術基盤を失わないようにするドイツのような「深謀遠慮」が必要である。

元の科学技術庁事務次官で金沢学院大学の学長のA氏とたまたまお話しする機会がありましたが、先生はこのような原発「悪者」の論調の中では若い優秀な原発技術者が育つわけがない、戦後日本は「平和の為の原子力」に呼応して原子工学を専攻した学生を6万人も卒業させ世に送り出しその力を発揮してもらったが、原発「悪者」との認識ではこの分野を学ぼうという志を持った学生は激減し、このままでは原子力技術の人材は枯渇し、自国で廃炉さえままならなくなる状況を心配されていた。

さらに近隣東アジアの原子力状況であるが、たとえ日本が脱原発に向かったとしても中国は2030年までに80基の原発建設・計画を推進している。また韓国や台湾も原発建設を電源基盤として推進している。少なくとも100基以上の原発が日本を取り巻く東アジアに林立することになる。

そうした状況の中で日本が原子力技術基盤の維持を放棄してしまえば、東アジア地域における原子力技術の安全性担保の仕組みや連携を議論する場所で、日本の貢献力・発言力はなくなってしまう。

また唯一の被爆国であり原発事故を経験した国として世界の非核化を目指して行動するにも「原子力の安全な平和利用」の国際的議論を主導しようにも、「原子力技術基盤のない素人」の議論に耳を傾けるほど国際社会は甘くないのである。

また「核兵器をつくり保持できる技術的・経済的基盤はあるが決してつくらない」という信念と基軸がなければ、核廃絶への訴えに世界は耳を傾けないだろう。

日本は今後も国際舞台で「日米原子力共同体」を梃子に「核なき世界」の実現に努力すべきである。日本においても「即原発ゼロ」か「さらなる原発推進」の二元論ではなく、賢くバランスのとれたエネルギーミックスの長期戦略が求められている。

もう一度ドイツに戻るが、「脱原発」の代表的なモデルのように言われているがエネルギー戦略を注視すると、現に原子力発電を稼働させており、また太陽光・風力の再生可能エネルギーにも力を入れているが、先の見えてきたメルケル政権以降のエネルギーミックスは方針を変換する可能性も有り得る。欧州共同エネルギー政策を志向する中で、イギリスのEUから脱退も現実になり、国境を越えた多様な電源ソースからの送配電網を構築し、エネルギーの安定供給確保に腐心していることがわかる。一方的に再生可能エネルギー重視の方向に走っているわけではなく、安定性とコストを配慮しつつ総合エネルギー戦略を進めている。

原発の未来について日本は官民上げて高温ガス炉の輸出に乗り出す。高温ガス炉は軽水炉に比べ、冷却材にヘリウムを使い燃料をセラミック材で覆うため溶融しない。設備数が少なく1キロワット時あたり3割程度安く、また使用済み核燃料が4分の1程度に減らすことが出来る。ライバルはロシアと中国であり、日本は17年ポーランドと高温ガス炉の技術協力で提携し文科省・経済省が検討チームを作りポーランドを足掛かりに、欧州全体では10兆円程の需要が見込まれている。



日本の高温ガス炉と同様に世界の原子炉開発は小型化にシフトしている。詳細は述べないが以下がある。

①熔融塩炉 ②進行波炉③小型モジュール軽水炉 等がある。

日本がこれらの小型炉を手掛けた理由は、原子力産業が縮小する中で優秀な人材を確保するには廃炉以外に前向きな技術開発テーマが必要になってくるからだ。今の国内の反原発の逆風の中、国内で建設するのは現状では難しく、ただ将来も原子力を一定程度維持するなら新技術の潮流にのる必要がある。上記の官民協力でポーランドに30年までに建設する計画が進んでいる小型炉開発が選択の一つとなった。

核融合発電が成功すれば2050年頃にはほとんど原発は稼働していない状況も想像できる。原発の未来は明るくない。



さざんかは満開

**クラブ例会予定**  
 12/20 年忘れ例会  
 12/27・1/3 休会  
 1/9 (水) 18:30 金沢東急H5F  
 「8RC新年合同例会」  
 1/10 振替休会  
 1/17 花井俊一郎氏卓話  
 1/24 杉山正樹氏卓話  
 1/31 宮永満祐美会員  
 オリエンテーション#1

**2018～19理事役員名**

役員 (8名)

会長 武藤清秀      会長ELT 大路孝之      副会長 江守道子      幹事 井上正雄  
 副幹事 東海林也令子      会計 西村邦雄      S.A.A. 助田忠弘      直前会長 上杉輝子

理事 (14名)

常任理事：石丸幹夫 吉田昭生

理事会オブザーバー・アドバイザー：パストガバナー 炭谷亮一      地区パスト幹事 岩倉舟伊智

委員会	クラブ管理 運営委員会	会員組織 委員会	広報委員会	奉仕プロジェクト委員会			
委員長	布施美枝子	表 靖子	上田喜之	野村礼子			
副委員長	浦田 哲郎	宮永満祐美	矢来正和	魏 賢任			
委員	①親睦 浦田哲郎 後出博敏	①会員増強 東海林也令子 井口千夏 上杉輝子	①広報 高田重男 辰巳クミ	①職業奉仕 谷伊津子 大沼俊昭 相良光貞 道端勝太	②社会奉仕 土田初子 北村信一 吉田昭生	③国際奉仕 R財団その他 岩倉舟伊智 炭谷亮一 大平政樹	④青少年奉仕 国際青少年交換 江守道子 金 沂秀
	②例会 例会 仲島康雲 杵屋喜三以満 永原源八郎	②オリエンテーション 宮永満祐美 野城 勲	②ライター情報 水野陽子 竹田敬一郎			米山奨学会 藤間勲弼 魏 賢任	
	SAA 助田忠弘 衣川昭浩		③会報 矢来正和 石丸幹夫 柿木健雄				
	CSJ 木下真知子 小浦勇一 柴田未来						

例会場 ホテル日航金沢5F〒920-0853金沢市本町2-15-1 T076-234-1111 例会日時 木曜日19:00  
 事務室 ライブ1ビル2F〒920-0852金沢市此花町3-2 T076-262-2211 F076-262-2241  
 E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp ホームページURL http://100rc.jp/  
 事務局執務時間 月火水金10:00～15:00 休憩時間12:00～13:00 休日(土日祝日)